

やまなし

2007.8.1
vol.5

no. 1

contents

- 2 学生にとっての山梨大学図書館
 - 3 電子ジャーナルタイトル管理ツール「A-to-Z」を導入しました
 - 4 利用者の声
 - 5 学生にすすめる本
 - 6 図書館統計
 - 7 図書館トピックス
- 附属図書館情報リテラシー教育：平成19年度の新たな取り組み
今後のイベント紹介

学生にとっての山梨大学図書館

スズキ トシオ
附属図書館長 鈴木 俊夫

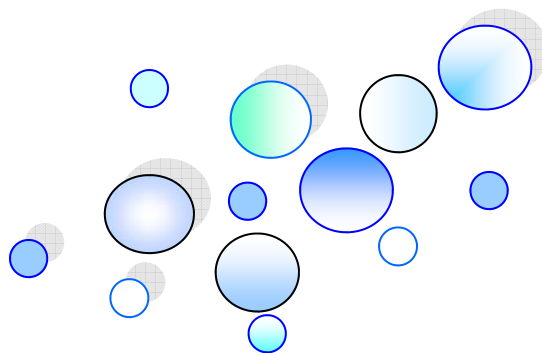
大学図書館は大学における教育・研究の基盤施設であり、それにふさわしい内容が求められてしかるべきです。電子化された情報が増加している今日では図書館で扱う資料も昔ながらの書籍・雑誌以外の学術情報が急増しています。最新情報が成否を左右したりすることの多い研究分野では、ある程度の時間が経過すると殆ど無価値になるという学術情報も少なくありません。一方で、大学が生まれた頃には既にあったような分野では図書は旧来のままの価値を持っています。いずれも大学に必要なものですが、先立つべき資金はやりくりの余地も殆どない状況で、様々な工夫を追求しているのが山梨大学の現状です。

IT時代の社会からの要請として、学生にはまずもってコミュニケーションと情報収集の2つの能力が必須の要件として求められています。その能力を獲得するためには、一定量の言葉を知ること、情報を情報として認識できる基礎的な知識が不可欠です。本学の教育方針でも教養教育の重要性が掲げられているように、本来自覚的に在学していれば自ずと教養が身につくところが大学です。「恋愛は教養の始まり」で、きっかけは何であれ自分を高めたいという思いが出発点です。

3年前の法人化後、大学構成員の共有資産としての図書館資料をより

多くの人が利用できるようにする方向に山梨大学図書館のあり方が定まりました。とりわけ、学習に役に立ち、教養を身に付けることに資する学生用の資料と環境を整えることに、これまでになく力を入れるようになっていきます。

「人は考える葦である」。考えるのは言葉を用いてですから、まず日本語を学ぶことから人らしくなる第一歩が始まります。読む、聞く、話すことの豊かな体験が教養の礎になり、とりわけ本を読むことは、人を知り、言葉を覚えるなど付随した多くの効果をもたらします。学生にとって主体的に学び、考える事が始まる場所として、充実した内容を持つ空間的存在であるのが「学生にとっての山梨大学図書館」の理想というものです。



電子ジャーナルタイトル管理ツール 「A-to-Z」を導入しました

【電子ジャーナルタイトル管理ツール「A-to-Z」とは】

- ・山梨大学で利用できる電子ジャーナルのリスト
- ・購読している約5,000誌(2007年度)に加え、フリーで提供されている電子ジャーナルも登録
→ 「A-to-Z」を確認すれば、利用できる電子ジャーナルがすぐにわかります

【「A-to-Z」導入によって利用可能になった機能】

- ・無料電子ジャーナルへのリンクを拡充
- ・タイトル検索機能
- ・分野ごとのブラウジング機能



The screenshot shows the 'Electronic Journal A-to-Z' interface. Key features are highlighted with callouts:

- アルファベット順タイトルリスト**: Alphabetical title list.
- 分野からの検索**: Search by subject area.
- 詳細検索**: Detailed search.
- 利用上の注意**: Usage notes.
- 電子ジャーナル活用マニュアル※1**: User manual for electronic journals.
- 和雑誌タイトル一覧※2**: List of Japanese journal titles.
- タイトル検索ボックス**: Title search box with search options like Index, Titles, Subjects, Search, and About This Site.

各ページの先頭と末尾のタイトル

An example of a journal entry for 'Science' is shown. Callouts indicate:

- 例)**: Example of a journal entry.
- ここをクリックして電子ジャーナルを閲覧**: Click here to view the electronic journal.
- 山梨大学所蔵の冊子**: Physical books held by Yamanashi University.
- 利用可能範囲(Embargoの期間は利用できません)**: Available range (Embargo period is not available).
- 文献複写依頼へ**: Request for document reproduction.

※1 詳細は電子ジャーナル活用マニュアルをご覧ください。

※2 日本語による検索は未対応です。誌名のヘボン式ローマ字表記で検索するか、和雑誌タイトル一覧で確認してください。

図書館利用の可能性

図書館という存在

医学工学総合教育部 持続社会形成専攻

医学部医学科 2年次生

イワムラ トオル
岩村 徹クノ ハルカ
久野 はる香

大学入学時から図書館を幾度となく利用してきた。そして、図書館の重要性と有用性は今後も変わることなく続いていくだろう。自分を含め、多くの学生が何らかの形で図書館を利用している。例えば、新聞を読んだり、レポートを作成したり、または文献や論文を借りたり、複写したりなどである。そして、大学図書館は学習面に留まらず、待ち合わせの場所や仲間と一緒に勉強する場などの機会をも提供してくれる。大学生活において、必要不可欠な場所であり、身近な存在でもある。

しかし、大学図書館のメリットはこれだけに限らない。例えば、大学図書館に居ながら、即時に大学内の蔵書を調べることはもちろん、県内外の大学図書館や公立図書館の蔵書をも検索することが可能である。また、カウンターに申請すれば自分が必要とする論文や文献の複写なども可能である。このようなサービスは普段の学業のみならず、卒業論文・修士論文を書く際には大いに役立つことであろう。

このように、大学図書館は、我々が積極的に活用することで多くの情報を得る機会を公平に提供してくれる。大学に居ながら、非常に多くの情報にアクセスできる機会を我々は潜在的に有しているのである。この様な恵まれた学習機会や情報利用機会をどう活かすのかは、個々の学生次第である。しかし、大学生活という限られた時間の中で、多くの情報に触れ、その中から必要な情報を取捨選択することを体験することはその後の社会においても活かすことが出来るのではないか。積極的な図書館利用は、我々に大きな可能性をもたらしてくれると考える。

私は図書館が好きだ。小学生のとき、水曜日は図書館の日と決めて毎週実家の近くの公立図書館に通った。高校生になると、図書館は私の学習の場となった。静かで、少しひんやりとした図書館の空気が私に集中力を与えてくれた。穏やかで、時間がゆっくりと流れるような図書館の雰囲気が、私に休息を与えてくれることもあった。大学二年生の今、利用者としてはもちろん、カウンター業務というかたちでこの図書館と関わらせてもらうことになった。そして、私は多くの時間をここで過ごしている。

皆さんはどんなときに図書館を利用するだろうか。本を読みたいとき、調べたいことがあるとき、集中して勉強したいとき、新しい知識を得たいとき。図書館の用途は様々だが、学習の場として利用する人が多いのではないかと思う。特にこの図書館は学習の場として優れた点が多い。申請さえすれば24時間好きなときに利用することができる。自学習だけでなく、グループ学習室では友人と話し合いながら学習することもできる。OPACという検索サイトによって探している本をすぐに見つけることができる。一般の公立図書館では取り扱わないような専門書が揃っているうえ、必要な本が大学の図書館にないときにも、簡単な手続きをすれば数日で取り寄せることができる。インターネットに接続できるパソコンも十分な台数設置されているので、幅広い分野の情報を手に入れることができる。そして、困ったことがあれば職員の方が親切に対応してくれる。

これからも図書館は私にとって大切な場所となるだろう。他の多くの人にとってもそうであるように、わずかではあるが図書館業務に携わっていかれたらと思っている。

『橋はなぜ落ちたのか -設計の失敗学-』

■ ヘンリー・ペトロスキー著
中島秀人 綾野博之訳 朝日新聞社

イシイ ノブユキ
工学部土木環境工学科 石井 信行

この本の帯には「次に落ちる橋はどれ？」というショッキングなキャッチ・コピーが付いている。商売において、人々の不安を煽り、その危機意識を購入へ繋げるとするのは、一つの常套手段であり、本書も過去に崩落した橋梁の事例を取り上げてその悲劇を述べているが、目的は「次に落ちる橋」を予言するものではない。

著者が投げ掛ける質問は、今考えると失敗して当然のことがどうして避けられなかったのか、ということである。それに対して、著者は紀元前一世紀にローマのウィトルウィウスによって書かれた「建築書」までさかのぼり、時代を追いながら設計者が陥りやすい心理や思考について、彼または彼女が置かれた環境（技術的にみて発展過程のどこにあるのかということや、当時の工学分野の状況という意味で）との関連に着目してケーススタディーを行っている。

具体の結論については各自で読んでいただきたいが、共通して言えることは、技術者の「良心」「謙虚さ」「慎重さ」が忘れられたところに、失敗が入り込む隙間ができるということである。

本書は、構造力学に多少なじみがあると理解が早いですが、適切で分かりやすい図表が添えられているので、文系の学生でも読むことはできると思う。構造物を題材にしながら、そこに書かれていることの本質は全ての分野に通じると言えるので、文系の学生にも読んで頂きたい。尚、同じ著者の『フォークの歯はなぜ四本になったか』もお勧めである。

所蔵案内：『橋はなぜ落ちたのか
-設計の失敗学-』
本館2階 一般書架
分類：513.1



『絵門ゆう子の がんとゆっくり日記』

■ 絵門ゆう子著 朝日新聞社

ハラダ キヨシ
医学部歯科口腔外科学講座 原田 清

著者の絵門ゆう子さんは元NHKアナウンサーの池田裕子さんです。NHK退局後フリーアナウンサーを経て女優に転身し、その活躍中に乳がんの診断を受けました。その際絵門ゆう子と改名し、朝日新聞都内版に記事を連載しました。本書はその連載記事を書籍にしたものです。連載期間は2003年11月6日から2006年3月30日まで。一方、絵門さんが永眠されたのは2006年4月6日ですので、本書の内容は絵門さんの遺言状ともいえます。

以前実母もがんと診断され、西洋医学を信じて医師の言いなりになり、治療に苦しんだあげくに命を落としたことを経験した著者は、自分のがんと告知されたときには西洋医学や医師には頼らず、自分で探した民間療法に身を委ねます。しかし、それは当然限界を迎え、がんの転移による激しい痛みと呼吸苦から、夫の勧める病院を受診することになります。そこで出会った医師との信頼関係を支えに、西洋医学的治療を開始し、症状の改善と社会復帰を果たしていきます。

本書では、今の医療の問題点や医師との関係を患者の立場から浮き彫りにし、自らの経験から医療や医師はどうあるべきか、家族や周囲の人間の関わりはどうあるべきか、そしてなによりも患者自身はどうあるべきかが、問題の深刻さとはうらはらに実に軽妙に描かれています。本学には卒業医療に関わる学生とそうでない学生がいますが、医療の問題は医療を提供する側にも受ける側にも大きくのしかかります。自身が其々の立場で意見を述べるようになる前には是非とも本書を一読されることをお勧めします。

所蔵案内：『絵門ゆう子の
がんとゆっくり日記』
医学分館2階 生と死のコーナー
分類：916



1 図書館利用統計(H18年度)

(1)開館日数・入館者数

区分	開館日数	入館者数(人)		
		学内者	学外者	合計
本館	260日	118,384	1,964	120,348
分館	288日	121,687	510	122,197

(2)館外貸出冊数・参考調査取扱件数

区分	館外貸出冊数(冊)				参考調査 件数
	学生	教職員	学外者	合計	
本館	19,392	1,677	555	21,624	3,224
分館	11,406	1,993	357	13,756	3,266

(3)相互利用

区分	貸借(単位:冊)		文献複写(単位:件)	
	貸出	借受	受付	依頼
本館	321	314	2,694	2,198
分館	144	52	4,122	3,903
合計	465	366	6,816	6,101

(4)子ども図書室

開館日数	121日
入室者数	1,863人
貸出券発行人数	116人
蔵書冊数	3,016冊
貸出冊数	2,101冊

2 図書館蔵書統計

(1)図書・雑誌蔵書数(H19.3.31現在)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	352,293	131,421	483,714	6,926	2,230	9,156
分館	54,908	49,182	104,090	2,114	1,342	3,456
合計	407,201	180,603	587,804	9,040	3,572	12,612

(2)図書・雑誌受入数(H18年度)

区分	図書(単位:冊)			雑誌(単位:種)		
	和図書	洋図書	合計	和雑誌	洋雑誌	合計
本館	6,490	616	7,106	2,571	283	2,854
分館	2,268	1,159	3,427	546	214	760
合計	8,758	1,775	10,553	3,117	497	3,614

3 電子ジャーナル統計

電子ジャーナル(2006/1~2006/12) fulltext ダウンロード件数

Science Direct	72,512	Karger	1,661
Blackwell Synergy	8,698	Science	3,295
Nature	20,706	Oxford University Press	4,676
Wiley InterScience	8,558		

附属図書館情報リテラシー教育：平成19年度の新たな取り組み

（本館）

- ◆ 全学共通科目 人間形成科目
大学基礎オリエンテーションにおいて
「図書館の利用方法」を担当

本館では、平成19年度から開始された大学基礎オリエンテーションの後半8回の授業で、「図書館の利用方法」を担当しました。

従来図書館では、前期授業開始時に5限（45分）の時間を使って、「新入生ガイダンス」を実施していましたが、全学部共通教育等再編準備プロジェクトの協力要請を受けて、新入生ガイダンスを踏襲した内容に図書館ツアーをプラスした形で実施しました。

電子資料を中心とした情報探索については、今年度も先生方のご協力により、学部1年次必修の情報関連科目で昨年に引き続き実習形式で実施しており（一部学部入門ゼミでの説明）、入学当初から図書館の全体的な利用方法を習得することで、学習活動と図書館が上手に連携していくことが期待されます。



（医学分館）

- ◆ 電子ジャーナル活用ガイダンス

医学分館では、平成19年度から「電子ジャーナル管理ツールA-to-Z」を導入したことを機会に、利用者の電子ジャーナルのさらなる有効活用を目的として、「電子ジャーナル活用ガイダンスー論文全文を入手するコツをつかむー」と題し、6月28日、7月3日の2回ガイダンスを実施しました。合計31名が参加し、終了後も参加できなかった利用者から問い合わせなどがあり 関心の高さが感じられました。

当日の資料は<http://www.lib.yamanashi.ac.jp/igaku/guidance/2007/H190628ejournal.pdf> にありますのでご利用ください。

- ◆ 附属病院看護部文献検索ガイダンス

7月10日(火)、看護部研究プロジェクト学習会において、「文献検索ガイダンス」を実施しました。看護研究に取り組み始める看護師24名を対象に、主に国内の医学文献の検索と入手法について約1時間行いました。当日は、説明にあわせて1人ずつパソコンを操作し、「医学中央雑誌WEB版」、「電子ジャーナル管理ツールA-to-Z」、学外文献複写依頼(MyLibrary)などを演習しました。

受講者からは、「パソコンを実際に操作しながらだったので、わかりやすかった」

「(当日の)資料を使いながら自分ひとりでも文献を入手できそうなので、がんばってみます」などの感想が寄せられました。

今後のイベント紹介



講座

- ◆ 山梨県・山梨大学連携事業「子どもと本を考える・連続講座」(全5回)
開催のご案内

子ども図書室では、山梨県・山梨大学連携事業の一環として、山梨県教育委員会と山梨大学の共同企画により、「子どもと本を考える・連続講座」(全5回)を子どもと本、読書に関する様々なテーマで開催します。

第1回 講座「絵本が育児にもたらずもの」(実施済み)

6月6日(水) 14:00~16:00 笛吹市石和図書館 視聴覚ホール

講師：山梨大学医学工学総合研究部教授 山崎洋子氏

第2回 講座「物語の世界へようこそー絵本から物語へー」(実施済み)

7月13日(金) 14:00~16:00

山梨県立文学館研修室

講師: 山梨大学教育人間科学部教授 岩永正史氏

主催

山梨県教育委員会

山梨大学附属図書館子ども図書室

○事前にお申し込みが必要です。

お申し込み・お問い合わせ先

山梨県教育委員会社会教育課

社会教育振興担当

〒400-8504 甲府市丸の内一丁目6-1

TEL 055-223-1771 FAX 055-223-1775

Email: shakaiky@pref.yamanashi.lg.jp

第3回 ワークショップ「読み聞かせの実際」

9月12日(水) 14:00~16:00

山梨大学総合研究棟(甲府キャンパス)

講師: 図書館ボランティアやまなし 齊藤順子氏

ききみみずきんおはなしの会 近藤幸枝氏

ピッピの会 宮崎さなゑ氏

第4回 講演「あずさ号にのって、ももんちゃんがやってきました

ーとよたかずひこ、自作を語るー

12月12日(水) 14:00~16:00

山梨大学教育人間科学部N号棟N-11教室(甲府キャンパス)

講師: 絵本作家 とよたかずひこ氏



第5回 シンポジウム「子ども文化としてのマンガ、アニメを考える(仮)」

(日時 未定) 山梨県立文学館研修室(予定)

コーディネーター: 山梨大学教育人間科学部教授 加藤繁美氏

シンポジスト: ※調整中

(山梨大学教育人間科学部准教授 秋山麻実氏ほか)



講演

◆ 山梨大学附属図書館医学分館・「生と死のコーナー」関連行事 講演会 演題: 緩和ケアがあって助かった

講師: 諏訪中央病院 緩和ケア科部長 平方眞先生(旧山梨医科大学医学部卒)

日時: 平成19年10月11日(木) 18時30分 ~ 20時(終了予定)

医学分館では、平成19年度の生と死のコーナー関連行事として、諏訪中央病院の平方眞先生を講師に招き講演会を開催します。平方先生からは、諏訪中央病院の実例を通して緩和ケアについて講演していただく予定です。

イベント詳細については、ポスター・パンフレット・山梨大学附属図書館・医学分館のホームページ等でお知らせいたします。皆様のご参加をお待ちしています。

お知らせ

■ 学外の方への利用案内

本館及び医学分館は、山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できます。詳細については、<http://www.lib.yamanashi.ac.jp>をご覧ください。本館 Tel:055-220-8066(情報サービスグループ)、医学分館 Tel:055-273-9357(医学情報グループ)にお問い合わせください。



山梨大学附属図書館報
「やまなし」
第5巻第1号

2007年8月1日発行

編集: 館報編集委員会

発行: 山梨大学附属図書館

〒400-8510

甲府市武田四丁目4-37

TEL 055-220-8063

●表紙撮影: 図書課資料情報グループ職員 河合 大場
所: 甲府キャンパス 図書館屋上から東側を望んで